令和５年度　各ブロックとの情報交換会

熊本県訪問看護ステーション連絡協議会理事　坂田百合野

新型コロナウィルス感染症のパンデミックにより活動が十分行えない日々が続き、その間に県内も訪問看護ステーションが増えたり、看護協会内に訪問看護総合支援センターが発足したりと環境の変化もありました。そこで、令和５年９月から令和６年３月にかけて、連絡協議会の理事と総合支援センターのスタッフが県内各地のブロックへ出向き、そのブロック内の会議に参加させて頂く情報交換会を行いました。

災害シミュレーションを行っての感想や質問、課題についての話題は、どのブロックでも上がり、ペアステーションの考え方、運用の仕方もブロック毎の事情に合わせて行われていました。FAX が集中した、管理者が交代したばかりで混乱した、実際の災害の時は？と考えた、行政との連携を進めたい、現場の声は協議会を通じて国などに上げてほしい、などの意見が出されました。ペアステーションも状況把握だけではなく、一歩進めた活用をブロック毎の事情に合わせて考えている地区もありました。継続することの大切さや紙に記録しておくことの重要性を感じているのは、どの地区も共通していました。

他には、コロナ感染症が５類になって以降の対応方法や、ハラスメント対策をどうしているか、緊急訪問の手当をどうしているか、主治医との連携の仕方、精神の監察関連の算定外の対応など、様々な話題について情報交換を行いました。県や保健所からの参加もあった地域では今後の連携についても話されました。訪問看護総合支援センターからは、発足したセンターの活動についての紹介や、よくある質問、運営に関する注意点についての説明がありました。今後も各地区と連携をとりながら、頼れる・つながる・支え合う活動を続けていきたいと思います。